

講習名	【選択】建築・町並・景観の教育的役割				
開設日時	8月22日(火)、24日(木)	担当講師	松政 貞治		
会場	富山大学(高岡キャンパス)	募集人数	35人	時間数	12時間
認定対象職種	教諭	主な受講対象者	小学校、中学校(美術・社会)、高等学校(工芸・美術・地歴)教諭		
受講料	12,000円	受講料以外の経費	なし		
講習の概要 どのような建築・町並・景観が良好なもので、また好ましくないものなのか、それらはどのような影響を私たちに与えるのかを、写真や映像を見ながら、欧米や中国、日本のものを事例にして考える。その上で、特に地域性の概念を中心に、歴史、地理、美術や郷土史の教育に役立てられる視点から、富山県内の建築・町並・景観(町家、散居村、近現代建築等)を分析・評価する。					
到達目標及びテーマ 建築・町並・景観が、教育的経験や歴史的文化的環境、社会的資産として果たし得る役割を考察すること、そして国内外や富山県内の事例について、基礎的な知識と、評価する視点や基準を習得する。					
講習の授業計画 1日目 1. (9:00-10:30) 歴史的文化的意味環境としての建築と脳科学(1) 日本の事例: 枯山水、茶室 2. (10:45-12:15) 歴史的文化的意味環境としての建築と脳科学(2) 日本、中国、アジアの事例: 京都・大阪の景観、福建土楼、江南水郷 3. (13:15-14:45) 共同的沈殿の経験としての建築と都市(1) 欧米の事例: パリの系譜、欧米主要都市類型の形成 4. (15:00-16:30) 共同的沈殿の経験としての建築と都市(2) 欧米の事例: 西洋建築の系譜 2日目 1. (9:00-10:30) 近・現代建築意匠における歴史性への配慮とその解体の試みとしての創造(1) ル・コルビュジエの「東方への旅」を中心に 2. (10:45-12:15) 近・現代建築意匠における歴史性への配慮とその解体の試みとしての創造(2) ル・コルビュジエを含む近・現代建築の系譜 3. (13:15-14:45) 固有な方言としての富山の建築が果たすべき教育的役割と、建築の評価に必要な概念: 地域性、歴史性、集団的記憶、場所性、ゲシュタルト的分節、相互参照構造など(1) 富山の事例: 散居村、合掌造り、土蔵造り、望楼 4. (15:00-16:30) 固有な方言としての富山の建築が果たすべき教育的役割と、建築の評価に必要な概念: 地域性、歴史性、集団的記憶、場所性、ゲシュタルト的分節、相互参照構造など(2) 富山の事例: 近現代建築遺産を中心に 筆記試験					
テキスト	なし				
参考資料等	当日、資料を配付する。				
修了認定(試験)の方法	筆記試験				
留意事項 (各自で準備するものなど)	なし				
備考	前年度「C803【選択】建築・町並・景観の教育的役割」受講者(履修認定済)は受講不可				